

| | | | | |
|---|--|--|---|-------|
| 徳山工業高等専門学校 | 開講年度 | 平成31年度(2019年度) | 授業科目 | 創造演習Ⅰ |
| 科目基礎情報 | | | | |
| 科目番号 | 0007 | 科目区分 | 専門 / 必修 | |
| 授業形態 | 演習 | 単位の種別と単位数 | 履修単位: 1 | |
| 開設学科 | 機械電気工学科 | 対象学年 | 1 | |
| 開設期 | 通年 | 週時間数 | 1 | |
| 教科書/教材 | 配布プリントなど | | | |
| 担当教員 | 三浦 靖一郎,藤本 浩 | | | |
| 到達目標 | | | | |
| <p>・自分が興味あるテーマを見出し、HP上で調査を自ら行う。そしてテーマに関する課題や疑問点を設定し、それらに対して自らの発想で解答を見いだす。</p> <p>・テーマに対して資料探索の方法、資料を使ってのストーリー展開、課題の発見、課題に関して解答を生み出す発想、発想をまとめ資料作成や口頭発表などをことができる。</p> | | | | |
| ループリック | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | |
| 資料探索の方法 | 電子端末や書籍などを活用して必要な事項の大半を調べることができる。 | 電子端末や書籍などを活用して必要な事項をおおむね調べることができる。 | 電子端末や書籍などを活用できず必要な事項も調べることができない。 | |
| 課題の発見と解答を生み出す発想 | 情報収集や情報整理により、十分に課題の発見と解答を生み出す発想をすることができる。 | 情報収集や情報整理により、おおむね課題の発見と解答を生み出す発想をすることができる。 | 情報収集や情報整理により、課題の発見と解答を生み出す発想をすることができない。 | |
| 資料作成および口頭発表 | 電子端末を活用して資料作成や口頭発表が十分にできる。 | 電子端末を活用して資料作成や口頭発表がおおむねできる。 | 電子端末を活用できず、資料作成や口頭発表ができない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | |
| 到達目標 C2 | | | | |
| 教育方法等 | | | | |
| 概要 | 資源のない日本が経済的な力を維持していくには、新しい価値を生み出す創造的な人材育成が必要である。その様な人材を育てることを目標とした創造教育が、機械電気工学科で行われている。そのスタートラインが創造演習Ⅰである。特に、学生が創造力を身につけるには、様々な事柄に興味や関心を持ち、それらの事柄の現状把握、課題発見、解決方法、考案などができるなければならない。本演習を通じて自分の知識の幅や深さを広げ、自分で学ぶ方法を身につけてテーマについて、まとめたりする能力を向上させる。 | | | |
| 授業の進め方・方法 | <p>前期: 発表・報告書作成に必要なアプリケーション・ソフトウエアの基本的な使い方を学ぶ。パテント・コンテスト出願に向けての特許調査とアイデアの創出を行い、発表する。</p> <p>後期: オリジナル・テーマについて調査研究を行い、発表する。</p> | | | |
| 注意点 | 前後期に作成した課題と発表を総合評価する。テーマに関し適切な課題を設定しているか、課題に対して妥当な解を得ているか、資料調査や調査方法は妥当か等を総合評価する。報告資料70%、発表30%の配分とする。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | |
| 前期 | 1週 | オリエンテーション | 創造演習Ⅰの目的や意義を理解する | |
| | 2週 | コンピュータの基礎1 | コンピュータの基本的な設定ができる | |
| | 3週 | コンピュータの基礎2 | コンピュータの基本的な設定ができる | |
| | 4週 | ポータブルアプリケーションの使い方1 | ポータブルアプリケーションの基本的な設定・利用ができる | |
| | 5週 | ポータブルアプリケーションの使い方2 | ポータブルアプリケーションの基本的な設定・利用ができる | |
| | 6週 | ポータブルアプリケーションの使い方3 | ポータブルアプリケーションの基本的な設定・利用ができる | |
| | 7週 | ポータブルアプリケーションの使い方4 | ポータブルアプリケーションの基本的な設定・利用ができる | |
| | 8週 | ポータブルアプリケーションの使い方5 | ポータブルアプリケーションの基本的な設定・利用ができる | |
| 2ndQ | 9週 | 特許調査の基礎1 | 特許について理解する | |
| | 10週 | 特許調査の基礎2 | 簡単な特許調査ができる | |
| | 11週 | 特許アイデア調査1 | 特許調査を行ながら、特許となるアイデアを思考することができる | |
| | 12週 | 特許アイデア調査2 | 特許調査を行ながら、特許となるアイデアを思考することができる | |
| | 13週 | 特許アイデア調査3 | 特許調査を行ながら、特許となるアイデアを思考することができる | |
| | 14週 | 特許アイデアの資料作成1 | 特許アイデアを簡潔にまとめることができる | |
| | 15週 | 特許アイデアの資料作成2 | 特許アイデアを簡潔にまとめることができます | |
| | 16週 | 前期まとめ | | |
| 後期 | 1週 | 自主研究課題についてのオリエンテーション1 | 自主研究課題の目的や意義について理解する | |
| | 2週 | 自主研究課題についてのオリエンテーション2 | 自主研究課題の調査方法を確認する | |
| | 3週 | 自主研究課題の調査1 | 自主研究課題について調査できる | |
| | 4週 | 自主研究課題の調査2 | 自主研究課題について調査できる | |
| | 5週 | 自主研究課題の調査3 | 自主研究課題について調査できる | |
| | 6週 | 自主研究課題の調査4 | 自主研究課題について調査できる | |
| | 7週 | 自主研究課題の調査5 | 自主研究課題について調査できる | |

| | | | |
|------|-----|--------------|----------------------|
| | 8週 | 自主研究課題の資料作成1 | 自主研究課題について簡潔にまとめができる |
| 4thQ | 9週 | 自主研究課題の資料作成2 | 自主研究課題について簡潔にまとめができる |
| | 10週 | 自主研究課題の資料作成3 | 自主研究課題について簡潔にまとめができる |
| | 11週 | 自主研究課題の発表1 | 自主研究課題について発表することができる |
| | 12週 | 自主研究課題の発表2 | 自主研究課題について発表することができる |
| | 13週 | 自主研究課題の発表3 | 自主研究課題について発表することができる |
| | 14週 | 自主研究課題の発表4 | 自主研究課題について発表することができる |
| | 15週 | 自主研究課題の発表5 | 自主研究課題について発表することができる |
| | 16週 | 後期まとめ | |

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 |
|---------|-----------------|-----------------|---|-------|-----|
| 分野横断的能力 | 総合的な学習経験と創造的思考力 | 総合的な学習経験と創造的思考力 | 工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。 公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。 | 2 | |
| | | | | 2 | |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 0 | 30 | 0 | 0 | 70 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 30 | 0 | 0 | 70 | 0 | 100 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |